

教科	科目
国語	教養現代文
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次進学教養(A)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 現代文分野の基礎力を十分に養成し、要約を通じて文章を読解する力を身につける。

授業形態… 一斉授業・演習

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	○漢字・慣用句を身につけ、語彙力を高める。 ○具体と抽象、因果関係など、各段落の役割を的確に読み取り、筆者の主張をとらえる。
6月 ↓ 9月	○人物、情景、心情の描写などをとらえる。 ○人物の発言や行動から心情をとらえる。
10月 ↓ 12月	○漢検2級レベルの漢字・慣用句を身につける。 ○段落同士の関係を的確に読み取り、簡潔に要約する。 ○テーマについて深い教養を身につける。
12月 ↓ 3月	○人物や情景などを的確にとらえ、叙述に即して文章中の人物の生き方を理解する。 ○文章全体をふまえ、簡潔にまとめる。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	毎回の問題演習を通し自らの読解力を高めようとする。 授業への取り組み、プリント
思考・判断・表現	毎回の問題演習を通し自らの読解力を高め、答案に反映させることができる。 授業への取り組み、プリント
技能	問題演習や解説を通し、評論文や小説の読み方を身につけることができる。 定期試験、プリント
知識・理解	評論文や小説の読み方を身につけ、初見の文章でも内容を読解できる。 定期試験、プリント

考查点と平常点の割合

考 査:6割 平常点:4割

使用教材等

教科書…なし

進路・資格等

卒業後の進路… 大学・短大、(入学試験を課す)専門学校
看護学校進学希望者及び公務員希望者

関連資格…特になし

教科	科目
外国語	英語表現 I
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次進学教養(B)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 既習事項を土台として、標準的な英語力の習得を目指す。4技能をバランスよく身につける。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	Classroom English, Get Ready, Lesson 1～5 ●時制の表現法について学び、読み手や目的に応じて簡潔に文章を書く力を養う。
6月 ↓ 9月	Lesson 6～12 ●助動詞、受動態、不定詞、動名詞などについて理解を深め、読み手や目的に応じて簡潔に文章を書く力を養う。
10月 ↓ 12月	Lesson 13～18 ●分詞、知覚動詞、使役動詞、比較、関係代名詞について理解を深め、読み手や目的に応じて簡潔に文章を書く力を養う。
12月 ↓ 3月	Lesson 19～25 ●関係代名詞、関係副詞、仮定法、部分否定・準否定語、間接話法と時制の一致、接続詞について理解を深め、読み手や目的に応じて簡潔に文章を書く力を養う。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	言語活動に積極的に取り組んでいる。 授業や課題への取り組み
思考・判断・表現	語句や活用法などを正しく用いて表現している。 発表、会話、定期考査
技能	辞書などを活用し英作文することができる。 資料の読み取り、定期考査
知識・理解	文の構造や語法など正しく知識を身につけている。 定期考査、小テスト

考查点と平常点の割合

考 査:6割 平常点:4割(出席・提出物・小テスト)

使用教材等

教科書…三省堂「MY WAY English Expression I New Edition」
副教材…三省堂「エースクラウン英和辞書」

進路・資格等

卒業後の進路… 大学・短大、専門学校(試験を課すもの)
看護学校など進学希望者

関連資格…実用英語技能検定

教科	科目
商業	簿記
単位数	必修・選択(枠)
4単位	2年次産業情報(AB)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…20人以内

学習内容等

科目の目標… 簿記に関する知識と技術を習得し、その基本的な仕組みについて理解するとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を身に付ける。

授業形態…一斉授業

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	簿記の概要、資産・負債・純資産と収益・費用の概念、財務諸表としての貸借対照表や損益計算書の仕組みや役割について理解する。
7月 ∩ 9月	取引の処理(仕訳や帳簿記入)について学ぶ。現金預金や商品売買、債権債務、固定資産、各種税金の会計処理等を理解する。
10月 ∩ 12月	決算整理の方法と、財務諸表の作成方法、仕組みや役割について理解する。
12月 ∩ 3月	財務諸表の分析や計算問題、関連する会計法規を理解し、企業における取引を合理的、能力的に記帳する知識と技術を習得する。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	簿記会計に興味関心をもち、実社会と関連付けて会計処理を理解しようとする。 授業への取り組み 出席状況
思考・判断・表現	企業の財政状態や、経営成績を明らかにし、それをもとに経営状態の良否を判断できる。 プリント、演習、定期考査
技能	貸借対照表と損益計算書内容を正しく理解し、かつ作成できる。 教科書の例題 過去問演習
知識・理解	財務会計が果たす社会的役割について深く理解できるようになる。 プリント、演習、定期考査

考査点と平常点の割合

考査:6割 平常点:4割

使用教材等

教科書…実教出版『新簿記』
副教材…実教出版『最新段階式簿記検定問題集3級』
経費…副教材費 ¥600 検定料 ¥1,300(1科目)
各自電卓を準備すること

進路・資格等

卒業後の進路…販売・事務系の就職希望者
経済学部や商学部への進学を目指す者

関連資格…全商簿記検定3級・2級

教科	科目
工業	生産システム技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次産業情報(A)

履修条件等

履修条件等…「情報技術基礎」を選択していることが望ましい

人数制限…12人

学習内容等

科目の目標… 生産システムに関する知識と技術を習得し、知識と技術を実際に活用できるようにする。

授業形態…一斉授業

年間授業計画	
4月 ∩ 6月	直流回路の計算(オームの法則、直列回路、並列回路、直並列回路)等について学習し、電気の基礎を身につける。
6月 ∩ 9月	電磁気学(磁気、静電気、磁気作用、フレミングの法則)等について学習し、電磁気の基礎を身につける。
10月 ∩ 12月	交流回路(RL回路、RC回路、RLC回路、共振回路)について学習し、交流回路の基礎を身につける。
12月 ∩ 3月	電機設備(電力システム、各種発電所、送配電設備、電動機)について学習し、広く電気について学ぶ。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	生産システムに興味・関心を持ち、意欲的かつ誠実な態度で授業に臨む。 出席・授業への取り組み・提出物
思考・判断・表現	工業のルールに則って電気の事象を図や数式などを用いて表現することができる。 定期考査、小テスト、授業プリント
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身につける。 授業への取り組み
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント、演習、テスト

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…実教出版『生産システム技術』

進路・資格等

卒業後の進路…工業系への進学・就職する者に勧める。

関連資格…第2種電気工事士

教科	科目
工業	電気・電子実習
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次産業情報(B)

履修条件等

履修条件等・・・「情報技術基礎」を選択していることが望ましい

人数制限・・・ 12人

学習内容等

科目の目標・・・ものづくりなどの体験授業を通して、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術を身につける。

授業形態・・・ 実習・実験

年間授業計画	
4月 5月 6月	オームの法則の実験を通じて実験装置(抵抗器、電源装置)の基礎的な使い方を学びながら、座学で習った内容を確認する。
6月 7月 9月	抵抗器を利用した分流器、倍率器を実際に組んで実験を行うことにより電気の基礎的な法則を確認する。
10月 11月 12月	回路計(テスタ)の製作および使い方を通じて、電子回路の基礎的な内容や、はんだ付け等の技術を習得する。
12月 1月 3月	電磁気の実験を通じて静電容量(コンデンサ)の特性を知り、電磁気回路の重要性を知る。またプログラミングの基礎的な内容も行う。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	電気・電子に興味・関心を持ち、意欲的かつ誠実な態度で授業に臨む。
	出席・授業への取り組み
思考・判断・表現	電気のルールに則って電気工事を行い、作品や配線図などを用いて表現することができる。
	実習レポート
技能	計算技術検定や電気工事士の実習を通じて技能を身につける。
	実験実習への取り組み、レポート
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。
	プリント、作品

考查点と平常点の割合

実習:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書・・・なし
経費・・・実習費徴収(金額未定)

進路・資格等

卒業後の進路・・・工業系への進学・就職する者に勤める。

関連資格・・・計算技術検定3級・第2種電気工事士

教科	科目
芸術	構成
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次生活表現(A)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・ 20人

学習内容等

科目の目標・・・基礎・基本的な美術の知識・技能を学び、幅広い創作・鑑賞活動を行い、構成力を高める。

授業形態・・・ 一斉授業・個人制作

年間授業計画	
4月 5月 6月	●パッケージデザインの制作 ・シンボルマーク、ロゴタイプの学習 ・作品鑑賞と作品のプレゼンテーションを行う
6月 7月 9月	●桜が丘祭ポスター制作 ・レタリング(文字のデザイン)の基礎学習 ・視覚伝達デザインの基礎学習、作品鑑賞
10月 11月 12月	●アニメーションの基礎学習と表現 ・ソーモロープ、フリップブック、ゾートロープ ・作品鑑賞
12月 1月 3月	●自画像制作 ・キャンバス張りとマチエール(下地づくり) ・自己をモチーフにした作品制作

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	つくること・観ることなど授業に積極的に取り組んでいる。
	出席状況、授業や課題に対する取り組み
思考・判断・表現	素材や用具の特質を理解し、様々な視点で構想を練り、表現の可能性を追求している。
	アイデアスケッチ、発表、プレゼンテーション
技能	素材などを効果的に用いながら、美的秩序を意図して創造的に表現している。
	作品課題の取り組み
知識・理解	作品や作者の個性を理解し、表現や材料の工夫などについて分析理解している。
	ワークシート、感想シート、発表

考查点と平常点の割合

考查は実施せず、作品や制作態度、作品提出等で評価する。

使用教材等

教科書・・・なし
経費・・・教材代(3,000円程度)

進路・資格等

卒業後の進路・・・大学・専門学校・短大などに進学し、美術を生かした職業に就きたい者に勤める。

関連資格・・・特になし

教科	科目
芸術	工芸 I
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次生活表現(B)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…20人

学習内容等

科目の目標…前期と後期で「陶芸」と「木工」を学び、素材を生かしながら基礎・基本的な知識、技能を習得し、「用と美」についての理解を高める。

授業形態…一斉授業・個人制作

年間授業計画	
4月 5月 6月	●「陶芸」 ・手びねりでの作品制作 ・スラブローラー(板作り)の成形
6月 7月 9月	●陶器制作 ・素焼き、施釉、本焼きの一連の制作の流れを通して陶芸の基礎を学ぶ。
10月 11月 12月	●「木工」 ・木工具の扱い方を学び、木材の切断、接合、加工方法の基礎技術を用いて作品を制作する。
12月 1月 3月	●暮らしに役立つ木工品の制作 ・工芸作品のデザインの鑑賞と木材の加工・仕上げの基礎から暮らしに役立つ作品を生み出す。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	つくること・観ることなど授業に積極的に取り組んでいる。 出席状況、授業や課題に対する取り組み
思考・判断・表現	素材や用具の特質を理解し、様々な視点で構想を練り、表現の可能性を追求している。 アイデアスケッチ、発表、プレゼンテーション
技能	素材や用具を効果的に用いながら、用と美を意識して創造的に表現している。 作品課題の取り組み
知識・理解	作品や作者の個性を理解し、表現や材料の工夫などについて分析し理解している。 ワークシート、感想シート、発表

考查点と平常点の割合

考查は実施せず、作品や制作態度、作品提出等で評価する。

使用教材等

教科書…日本文教出版「工芸 I」
経 費…教材代(2,000円程度)

進路・資格等

卒業後の進路…大学・専門学校・短大などに進学し、美術を生かした職業に就きたい者に勧める。

関連資格…特になし

教科	科目
芸術	音楽 II
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次生活表現(A)

履修条件等

履修条件等…「音楽 I」を履修済みであること

人数制限…20人

学習内容等

科目の目標…「音楽 I」で学習した内容をより深め、より幅広く音楽に関われる力を養い、生涯にわたり音楽と関われる思考力、表現力を身に付けるきっかけを学ぶ。

授業形態…一斉授業・グループ学習

年間授業計画	
4月 5月 6月	・斉唱と二部合唱の違いや各々の良さを味わいながら歌唱する。
6月 7月 9月	・イタリアの歌曲を文化や歴史、歌詞に着目しながら表現に繋げる。 ・リコーダーの構造、奏法について学習する。
10月 11月 12月	・リコーダー(ソプラノ・アルト)のアンサンブルを通して、「合わせる」ということについて学習する。 ・桜が丘祭のステージ発表で合唱を披露する。
12月 1月 3月	・有名なクラシック音楽を音楽史順に鑑賞する。 ・DVDでオペラの鑑賞をし、ストーリーと音楽の関係について学習する。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に積極的に取り組んでいる。 出席、授業への取り組み、ファイル
思考・判断・表現	歌詞の内容や楽曲の背景を感じ取り、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。 プリント、実技試験、練習の取り組み
技能	歌唱、楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏している。 実技試験、練習の取り組み
知識・理解	音楽に対する理解を深め、よさや美しさを味わいながら学習に取り組んでいる。 実技試験、定期考查、プリント

考查点と平常点の割合

考 査:4割 平常点:6割

使用教材等

教科書…教育出版『音楽 II Tutti』
副教材…学校制作教材(プリント)

進路・資格等

卒業後の進路…保育系の進学、演奏関係、舞台音響音楽系の進学、その他

関連資格…特になし

教科	科目
芸術	器楽演奏
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次生活表現(B)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…20人

学習内容等

科目の目標…各楽器(ピアノ、キーボード、ギター、ベース、パーカッション等)の演奏技術やステージマナーを身に付ける。
聴衆の前で演奏の緊張感を味わう。

授業形態…個別学習・グループ学習

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	・楽譜の読み方(ト音記号の階名)、指使いを学習しながら、片手でメロディーを演奏する。
6月 ↓ 9月	・楽譜の読み方(ヘ音記号の階名)を学習する。 ・課題曲(3曲)から1曲を選曲し、片手もしくは両手で演奏する。
10月 ↓ 12月	・桜が丘祭のステージ発表でグループごとに合奏を発表する。 ・連弾(2手・4手)で演奏し、1曲を2人で完成させる。
12月 ↓ 3月	・レベル(演奏技術)に合った楽譜を自分で用意し、できる限り両手で演奏することに挑戦する。 ※曲目は自由とし、部分的に両手でも可とする。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	楽器や音楽に関心をもち、授業に積極的に取り組んでいる。 出席、授業への取り組み、記録カード
思考・判断・表現	技能を身に付けるために工夫したり、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 練習の取り組み、記録カード
技能	器楽の技能を身に付け、様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、創造的に表している。 実技試験、評価カード
知識・理解	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す雰囲気を感じながら演奏している。 実技試験

考查点と平常点の割合

考查は実施せず、授業の中で実技試験を行い評価する。

使用教材等

教科書…なし
副教材…学校作成教材(プリント)

進路・資格等

卒業後の進路…保育系の進学、演奏関係、舞台音響音楽系の進学、その他

関連資格…特になし

教科	科目
家庭	フードデザイン
単位数	必修・選択(枠)
4単位	2年次人間環境(AB)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…20人(施設・設備等による人数制限)

学習内容等

科目の目標…食生活を振り返り、「食」の大切さや栄養についての知識を深め、自らの食生活に活かす能力と技術を身につける。

授業形態…一斉授業・実習

年間授業計画	
4月 ↓ 6月	食事の意義と役割、食をとりまく現状など、食に関する基礎的な知識と技術を習得する。
6月 ↓ 9月	各栄養素のはたらきを学習し、それらの消化、吸収のプロセスについて、また食事摂取基準について学び、バランスよく栄養摂取することの重要性を理解する。
10月 ↓ 12月	ライフステージごとの栄養計画について学び、各段階に応じた食事の必要性を知り、また、料理形式と献立をもとにテーブルコーディネートについての基礎知識を実習を通して習得する。
12月 ↓ 3月	食品の特徴と性質について学ぶことで、食材の特徴、加工品の成り立ちを理解し、自分が普段食しているものについて関心を高める。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、食に関する内容を進んで理解しようとしている。 出席状況、授業態度
思考・判断・表現	献立や料理、食生活などについて、自ら進んで工夫しようとしている。 課題、ワークシート
技能	切り方、調味、加熱に関する技術を身につけ、食材、料理に応じた適切な調理操作ができる。 実習への取り組み
知識・理解	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけている。 定期考査、課題プリントの取り組み状況

考查点と平常点の割合

考查:6割
平常点:4割(出席・態度・課題・身だしなみ)

使用教材等

教科書…実教出版『フードデザイン』
副教材…教育図書『トータル・データ 家庭科ガイドブック』(一年次購入済)
経費…教材費として7,000円を徴収する。

進路・資格等

卒業後の進路…調理系への就職及び進学を希望する者に勧める。

関連資格…全国高等学校家庭科食物調理技術検定4・3級

教科	科目
農業	農業と環境
単位数	必修・選択(枠)
4単位	2年次人間環境(AB)

履修条件等

履修条件等・・・実習等しっかりと取り組める生徒。長期休暇中(夏季・春季)における数日間の農場実習を必修とする。

人数制限・・・20人(施設・設備等による人数制限)

学習内容等

科目の目標・・・農業に関する植物の栽培や動物の飼育、農業に関する環境の調査や保全について学ぶ。とくにイネの作物栽培を通して、植物の栽培技術やその環境の理解を深める。

授業形態・・・一斉授業・実験・実習・ワークシート

年間授業計画

4月	日本学校農業クラブについて知り、これから農業を学習する上での心構えを身に付ける。
5月	
6月	「イネの生理」・「野菜の種類と分類」について学び、今年1年間の対象となる農産物の基礎知識を得る。
6月	イネ・夏野菜の栽培、生育調査、環境調査をおこない、農産物の栽培の基礎知識を得る。
9月	
10月	イネの収穫、収量調査を通し、イネの収穫量を理解する。秋冬野菜の栽培、生育調査をおこない、農産物の栽培の基礎知識を得る。
12月	
12月	イネ・各野菜の栽培についてまとめ、次年度、本格的な農産物栽培へ向けての計画を立てる。
3月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、農作物の特徴を進んで理解しようとする。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	農作物の特徴を理解し、栽培方法などについて自ら進んで工夫しようとする。
	授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで栽培技術を身に付けようとする。
	実習への取り組み
知識・理解	農作物の特徴を理解し、作業への工夫など考えて行動しようとする。
	定期試験、ノートやプリントへの記帳

考查点と平常点の割合

考查:7割
平常点:3割(ノート、ワークシート、授業や実習への参加状況)

使用教材等

教科書・・・実教出版「農業と環境 新訂版」
副教材・・・学校作成教材(プリント)
経費・・・農業クラブ会員費・作業着・長靴代

進路・資格等

卒業後の進路・・・農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格・・・農業・野菜・土壌肥料関係資格(希望者)

教科	科目
福祉	社会福祉基礎
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次人間環境(A)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・15人

学習内容等

科目の目標・・・社会福祉に関する基礎的な知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解するとともに、人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

授業形態・・・一斉授業、実習

年間授業計画

4月	現代社会の変化とともに、人々が社会福祉及び関連する制度やサービスに何を求めているのかについて考察する。
5月	
6月	人の一生を人間の発達過程により理解する。また、家族・家庭との関係や社会福祉との関連性について考察する。
9月	
10月	社会福祉の基本的な理念とは何かについて考察する。児童福祉の基本的な事項について理解するとともに、関連する課題を考える。
12月	
12月	社会保障制度の目的や範囲について理解するとともに、社会保障によるセイフティーネットの役割と重要性について考察する。
3月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	社会福祉に対する関心をもち、福祉社会に向けた課題に意欲的に取り組んでいる。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	日常生活から派生する社会福祉に関する諸課題の解決を目指して思考を深めている。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
技能	社会福祉に関する様々な資料や情報を適切に選択し活用して実習に参加している。
	実習への取り組み
知識・理解	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の理念と意義、役割を理解している。
	定期試験、ノートやプリントへの記帳

考查点と平常点の割合

考查:6割
平常点:4割(出席・態度・意欲・身だしなみ・ファイル)

使用教材等

教科書・・・実教出版「社会福祉基礎」

進路・資格等

卒業後の進路・・・福祉関係

関連資格・・・福祉関係資格(希望者)

教 科	科 目
福祉	生活支援技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	2年次人間環境(B)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・ 15人

学習内容等

科目の目標・・・ 利用者の自立の支援を目的とする介護の役割を理解するとともに、基礎的な介護の知識と技術を身に付ける。さまざまな介護場面の中で、介護技術を実践に移す能力と態度を身に付ける。

授業形態・・・ 一斉授業、実習

年間授業計画

4月 ↓ 6月	生活とは何か、その定義について理解した上で要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を考察する。
6月 ↓ 9月	介護過程の中でアセスメントが持つ意義、役割について理解し、利用者及びその家族が抱えるニーズの把握に向けた関わり方を考察する。
10月 ↓ 12月	居住環境整備の意義、目的ならびにバリアフリー、ユニバーサルデザインの考えに基づいた居住環境について理解し、ICFの視点を活かした望ましい居住環境整備のあり方を考察する。
12月 ↓ 3月	在宅、施設、グループホーム、ユニットケアといった生活空間の特徴について理解し、利用者の安心で快適な生活の構築に向けたその手法を習得する。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	自立を支援する介護に関心、意欲を持って学び、自己の向上を目指している。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	介護を実践していく上で、その方法を利用者視点で考え表現する能力を身に付けている。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
技能	介護の知識のもと、利用者の自立と安全を重視した活動を実践していく能力を身に付けている。
	実習への取り組み
知識・理解	基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解している。
	定期試験、ノートやプリントへの記帳

考查点と平常点の割合

考 査:6割

平常点:4割 (出席・態度・意欲・身だしなみ・ファイル)

使用教材等

教科書・・・実教出版「生活支援技術」

進路・資格等

卒業後の進路・・・福祉関係

関 連 資 格・・・福祉関係資格(希望者)